第６回あおもり立志挑戦塾

平成 22 年 11 月 20 日（土）～21 日（日）

平成 22 年度「あおもり立志挑戦塾」の締めくくりとして、「結集!!あおもり人財力フォーラム」を 11 月 20 日、青森国際ホテルで開催しました。フォーラムは、張万基（ちゃんまんぎ）氏（韓国人間開発院院長）の基調講演と、野田一夫塾長をコーディネーターに平松守彦氏（前大分県知事）、椎名武雄氏（日本ＩＢＭ名誉相談役）、三村申吾知事によるパネルディスカッションを行いました。

基調講演：張万基（ちゃんまんぎ）氏「人財育成の世界潮流」（通訳：趙佑鎭多摩大学准教授）

世界の変化は驚くほど速く、そのスピードにいかに対応していくかが人類の課題と言えるでしょう。そして今、世界は革命期にあると言ってもいいでしょう。日本はものづくりを基盤とした産業革命以来の流れに乗って大きく成長しました。しかし、日本は高度知識情報化社会への対応には遅々たるものがありました。肉体労働者から知識労働者に生まれ変わらなければなりません。かつての学歴社会からネットワーク社会に変わり、人間的環境をいかに築くかが競争力の鍵になってきています。知識経営や知識革命という言葉がよく使われますが、今や知恵の革命です。知識ではなくて知恵の革命、知恵の時代をいかに生き抜くかが課題になっています。知恵の時代においては、共に生きる共存共栄が大事になってきます。そこでは、教育が実に大事です。

長城（ちゃんそん）郡は、ほとんどの韓国人が知らない小さな町でした。金興植（きむふんしゅく）さんが郡守に当選した 1995 年、その時初めて韓国は民選首長が生まれました。金郡守は、元々は経営者で、10 年間で１週も欠かさず我々の研究会に来て勉強をしていたので、当選１か月後に私はお祝いの訪問をしました。彼は、コミュニケーションと改革の意思がイノベーションをもたらすということを誰も理解してくれないことに悩んでいました。そして彼は、自分の勉強の 10 年を振り返り、公務員を変えるには教育しかない、大統領並みの偉い人の話を聞けば自然と変わるんじゃないかと思ったらしいです。そこで私は「教育だけで変われれば誰でもやれますよ」、「郡守自身が毎週一番前に座って最も勉強する姿を見せなければ成功しません」と強く言いました。３週間後、彼から「私は断固たる姿勢を見せます」との言葉がありました。そこで私は「21 世紀長城アカデミー」と命名した、１年間の教育アジェンダをセッティングしました。1995 年に長城アカデミーを始めて 16 年間、今も続いていますが、金郡守は在職していた 11 年間、１週も欠かさずに、私との約束を一つも違えず、出席し続けてくれました。

亡くなられた盧武鉉（のむひょん）大統領や今の李明博（いみょんぱく）大統領も長城郡の例に学び、1960 年代末から 70 年代にかけて世界最貧国だった韓国が、今やＧ20 の会議を主催する国家として、人類の課題を模索する立場になったことは非常に感慨深いものです。しかし韓国は、北朝鮮との戦争が勃発すればいつでも火の海になるような刃の上を歩いているようなものです。こういう危機を克服するためには、地方政府に何かを求めるのではなくて、個々人がまず変わらなければいけないでしょう。私は、このフォーラムをきっかけに、公務員と地域が変わって国が変わり、日本がアジアの主役になることを願ってやみません。金郡守のキャッチ

フレーズは、「世の中を変えるのは人だが、人を変えるのは教育しかないんだ」でした。
10 年後、20 年後に起こる変化は、皆さんの心が決めるのです。心の中でイメージし、いつも思い続けて下さい。それが実現することを確信し、情熱的に行動して下さい。そうなれば、全てを成し遂げることができるでしょう。三村知事と青森県民の皆さんが、いつもこのイノベーションを思い続け、青森から奇跡を起こすことを本当に願っています。

パネルディスカッション：「Look West！－地域のイノベーションは人づくりから－」

平松守彦氏

1975 年に大分県知事になって、「君たちの地域で作ったいいものがあれば、知事がセールスマンになって東京のマーケットで売ってあげる」と言ったのが一村一品運動の始まりです。大分では、日本のマーケットよりも世界のマーケットで通用するものが生まれ、農家の所得も高くなっていきました。また、例えば、柔道やサッカーからわかるように、ローカルとグローバルというのは決して矛盾するものではない。ローカルに磨きをかければグローバルになります。地域の活性化には、農業、漁業も含めて新しい価値を生む、ローカルにしてグローバル、それから自主自立、創意工夫が一番大切です。勉強された成果を青森県勢発展のために役立てるには、自分で行動をして自分で考えてやっていく。「シンク　グローバリー、アクト　ローカリー」。この言葉を贈ります。

椎名武雄氏

20 年ぐらい前、日本の元気がなくなり、会社もあまり元気がなかったから、ハッパを掛けようと、「日本をこれから変えていく人達」という新聞広告を出した。「若者、地方、女性、外国人」と。明治以来、日本は中央集権でやってきて、ある程度成功したけれども、成功体験が長引いたから変えようとしない。結局、それは無理。やってきた人は過去を否定できないから。関わってこない人というので考えたら、若者と地方と女性と外国人。ですから、日本を変えるには、地方が前面に出てこなくてはダメ。地方の前進を支えるのは若者、女性、外国人。もっともっと日本を活性化するためには、地方に大いに頑張ってもらいたい。若い人達が日本を変えていく。これを主張したいと思います。

三村申吾

青森県の目標は生活創造社会。生業に裏打ちされた豊かな生活を作り、きちんと維持していく。そのためには人財です。青森の未来は、人それぞれが持っているすばらしい力を伸せるかにかかっている。そのために、「あおもりを愛する人づくり戦略」を策定し、そのもとで人財育成を進めてきました。その主な取組は「あおもり立志挑戦塾」です。志、どう生きるかという大きなテーマへの思いは先ほどの塾生の発表に現れていると思いました。他には「庁内ベンチャー事業」。県職員がいい提案をしたら、財源と権限と人間を用意し、やらせています。県庁の本業をきちんとやる一方で、アイディアを出して頑張っています。

野田一夫塾長（コーディネーター）

考えてみますと、これからの日本の未来はとても東京とか大阪とか名古屋では無理だ。どこかとなると、やっぱり青森あたりがよき指導者を持って頑張れば、この滅びゆく日本を救うかも知れないという感じがするわけです。ここにご出席の青森の方々が協力一致して滅びゆく日本を救っていただきたい。